

～日詰商店街と大学生との連携～

令和4年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：日詰商店街における商店主の魅力に注目した地域の価値創造

研究代表者：総合政策学部 准教授 三好純矢

課題提案者：日詰商店会 & 日詰みらいプロジェクト 鷹觜賢次

研究メンバー：鷹觜賢次（日詰みらいプロジェクト代表、日詰商店会理事）

海老澤瑠維・五郎丸千尋・齋藤楓・高橋静香（総合政策学部）

キーワード：商店街、商店主の魅力、地域価値の創造

▼研究の概要（背景・目標）

日詰商店街では、活気の減少や後継者不足、商店の減少、それに伴う空き家・空き店舗の増加などの課題が顕在化している。したがって、「どのようにして商店会自ら日詰商店街の魅力を明確化し発信をしていくか」という地域課題に対して、日詰商店街独自の魅力として、商店主の魅力に注目した魅力発信を実践した。

▼研究の内容（方法・経過）

達成目標①「日詰商店街の店主の魅力にはどのようなものがあるのか整理をする」
達成目標②「広告媒体を利用して地域住民に対して店主の魅力発信を行う」
達成目標③「店主の魅力発信の効果を検証する」

1. 商店主へのインタビューと魅力の整理
2. 商店主に注目したパンフレットの作成
3. パンフレットを活用した魅力発信
4. 魅力が伝わっているか検証

▼研究の成果（結論・考察）

1. インタビューから整理された魅力は、店主紹介パンフレットの店舗紹介のコメントに活かすことができた。
2. パンフレットを活用して魅力発信を実施した。パンフレットは、紫波町の主要施設への設置や、掲載店舗での配布などを実施している。
3. メディアでも発信した際の反響などが多く得られた。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 商店街の強みである商店主の魅力を発信することができた。
2. パンフレットの効果検証が不十分である点や、今後、より一層商店街全体の足並みを揃える必要性など、残された課題もある。日常的に地域の人々が日詰商店街を利用ようになるには、今後も魅力の発信を継続的に実施する必要がある
3. 本研究では、多くの商店街関係者に御協力を賜りました。ここに深く御礼申し上げます。引き続き連携して活動できれば幸いです。

商店主にスポットを当てたパンフレット
右：表紙 左：裏表紙



商店主にスポットを当てたパンフレット



店主インタビュー



メディア向け発表会

